

Esperanto ー世界が似合う作家たちー

7.13 Sat.ー7.22 Mon. 10:00-19:30 (最終日は17:00まで)

at Bunkamura Box Gallery (渋谷)

〈出品作家〉 湯浅克俊、田島弘庸、川崎広平、新藤杏子、土田泰子、徳重秀樹

7/13 (土) 14:00~

ギャラリートーク 湯浅克俊、新藤杏子、徳重秀樹/ 木版刷デモンストレーション 湯浅克俊 (木版)

7/14 (日) 13:30~15:00

粘土モデリングデモンストレーション 田島弘庸 (陶)

14:00~ ギャラリートーク 土田泰子、川崎広平、田島弘庸

7/15 (月) 14:00~

水彩ライブペンティング 新藤杏子 (水彩)

企画・制作 Bunkamura Gallery, YUKI-SIS

エスペラント語 ー世界共通語ー 民族の言語や文化をその歴史的遺産として尊重し、大切にすると同時に、それぞれの言語や文化の違いを越えて人々がコミュニケーションできるようにするために橋渡しの役目を果たすことを目的とし提唱された言葉。

今回ご紹介する6名の作家は、技法、コンセプト、技術ともに、驚くべきものがある作家ばかりです。日本らしさを残しつつも、すでに世界で活躍する彼らが生み出す作品の、どこがユニバーサルに受け入れられるのか、万国共通の感覚とは何か、にスポットをあてた展覧会です。



湯浅克俊(木版)



田島弘庸(陶彫)



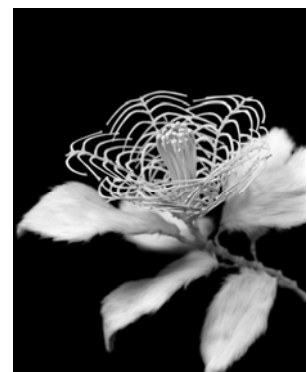
新藤杏子(水彩)



川崎広平(ミクストメディア)



土田泰子(ミクストメディア)



徳重秀樹(骨花/写真)

湯浅克俊 Katsutoshi YUASA



A history of a lady #1
1070x800mm Ed. 5
紙に木版水性摺り
Water-based woodcut on paper
2013

木版画の湯浅克俊は 1978 年東京生まれ。武蔵野美術大学卒業後、渡英。名門ロイヤルカレッジオブアート
修士修了。欧米を中心に数々の個展、レジデンス経験を持つ作家です。

いまだ浮世絵で止まっている日本の木版画の立ち位置を、今の視点からどうやって未来に切り開いていくか。

現代において木版画を用いて表現すること、できることとはなにか。作品それぞれに意味を込めて制作して

います。一見、写真のようにみえる作品は、すべて手で彫られており、光の陰影もすべて彫りの深さ浅さ、

幅の広さ細さで表現しています。その技術は驚くべきものです。湯浅自身で撮影した写真を基に彫り進めて

いきますが、実際の空気感までも感じとることができます。それは、そっと見るものの記憶と寄り添い、

特別なストーリーを作り上げていきます。

2012 年には Gallery YUKI-SIS の他、NY の ISE FOUNDATION、2013 年は香港、オーストラリアにて個

展。現在武蔵野美術大学非常勤講師。

田島弘庸 Hirotsune TASHIMA



Grab a Sub

740hx460wx510d mm

陶 Hand built multiple fired stoneware

2013

1969年広島生まれ。大阪芸術大学陶芸科卒業。NY州立アルフレッド大学修士修了。現在 Pima collage 陶芸学科長教授(Tucson, US)。アメリカを始め、ヨーロッパ、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランドなどでの展覧会、レジデンス、ワークショップ多数。作家として作品を作り始めた頃から、セルフポートレートスタイルで陶彫作品を制作。混沌とした社会の中で、それぞれの殻を受け入れつつ人生を懸命に生きる現代人、反面、時代に流され、経済活動の餌食になっている現代人たち。アイコンとして作家自身の顔を他人の人生に置き換えることで、それぞれの状況、問題に鋭い視点をあてています。最近はおrganicバナナシリーズを発表。バナナの黄色は、米国に在住する黄色人種で英語を話す作家そのもの。陶彫ながら細部までこだわりをみせ、色は何度もテストピースを焼き、すべて化学反応による、釉薬で着色されています。フェニックス空港、フェニックスコンベンションセンターのパブリックアート、デビッドボウイのアートコレクションに入っている他、日本では「たけしの誰でもピカソ」出演、岡本太郎賞入選、キリンアワード奨励賞、高橋コレクション、「あしたのジョー」等身大彫像、文星芸術大学寄贈など多数。

新藤杏子 Kyoko SHINDO



『3』_01

A4 (210x294mm)

水彩, アクリル, アルシエ紙

Watercolor, Acrylic on Paper

2013

1982 年生まれ、多摩美術大学油画の修士課程修了。水彩作品でありながら、下書きを一切せず、いつきに描かれるにじみを生かした線。簡単にみえるこの手法ですが、水彩の広がり方、色の濃度、微妙な色の混ざり具合など、彼女の経験値から完全にコントロールされて描かれたものです。ここ数年、モチーフに彼女自身の実体験や近しい人々などを基に構成されており、現代社会におけるもののあり方、人とのかかわり、混沌とした思考を喚起させます。自身の入院体験から、100 人の病院内の患者やドクターを観察し、コメントとともに描いた「drawing of one day」シリーズは本としても発表、NY でも大好評でした。今回の展覧会では、歴史上の王様を描く予定。徹底的なリサーチと独自の視点から描かれる「王様像」に期待がもてます。国内外での発表の他、シェル賞入選、GEISAI TAIWAN #2 と Young Artist Japan 2011 では審査員特別賞を受賞。フランスやイタリアのアートフェアにも出品しています。

川崎広平 Kohei KAWASAKI



Untitled
150dx200wx100h mm
アクリル オイル
Acrylic, Oil
2013

1972 年東京生まれ、武蔵野美術大学彫刻科の修士課程を修了した川崎広平の、制作における意識はとてもユニークなものです。何かのイメージを、素材を使って作り上げていくというよりも、その素材のもつ「要素、可能性」を組み合わせていくことで、どのように形成され、美しさに繋げていくか。それはまるで、生物の細胞と外観の関係や、構造からくる建築物の形、工業製品の内部構造と外部形状の関係などにも似ています。

現在、川崎が使用している「アクリル」という素材に、特別なオイルを加えることで、互いの素材たちの存在を消し、独特の宇宙観と時空間を作り出します。彼の「素材要素」への深い観察力と、「形状の美しさ」への探求は、瞑想状態にも似た空間に静かに繋がっているようです。

ニューヨークでのアートフェアでは大絶賛を浴び完売、知的な作風に多くのコレクター、ギャラリストらを唸らせました。

土田泰子 Hiroko TSUCHIDA



肉食連鎖の首飾り 〈Q〉
220x220x50 mm
77 ステンレスフォーク,
真鍮メッキ
77 Stainless Fork, Brass-plating
2013

1985年福井県生まれ。現在、愛知県にて制作活動中。

2007年名古屋芸術大学デザイン学部デザイン学科クラフトブロック メタル&ジュエリーコース在学中に渡仏。ディジョン美術大学留学。帰国後名古屋芸術大学卒業。その後もパリ cite International des Arts 滞在。

素材、カタチ、サイズ、つくり、すべてで彼女の持つ哲学、思想を表現するコンセプチュアルアート。主に金属を素材とする作品が多いのですが、ミクストメディアで作品を構成しています。作品に適した技法を用いますが、コンセプトでは人の心を扱うため、なるべく機械を使用せず自分の手で生み出す事を心がけています。コンセプトとともに力強さを持つ作品は、彼女の生きる姿勢をも感じさせてくれます。

2009年朝日現代クラフト展準グランプリ受賞、2011年 Franck Muller Art Grand Prix「求む、創造の天才」入賞、2012年アーツチャレンジ 2012 入選。Gallery YUKI-SIS 個展など展覧会多数。2013年1月には LA ART SHOW でのパフォーマンスは大絶賛を浴び、圧倒的な印象を残しました。3月には SCOPE NY、6月には Scope Basel 出品。

徳重秀樹 Hideki TOKUSHIGE



BONE FLOWER / Camellia #1
Image 556 x435 mm ED.3
骨花 / ゼラチンシルバープリント
Bone of mice, Gelatin silver print
2013

1974 年鹿児島生まれ。日本写真芸術専門学校卒業。2004 年死んでいるタヌキを家に持ち帰り、初めて動物から骨を取り出したことがきっかけで、古代から使われていた骨という素材で作品を作ることになります。その後、ペットの餌として売られている冷凍マウスから骨を取り出し、それを素材に使い「骨花」の立体を制作。写真作品として残した後は、その立体を壊して土に還し吊うことをコンセプトに独自の表現活動を続けています。なぜスーパーで売られている肉は怖くないのに、死んだ動物の肉や骨は怖いのか？知らず知らずにすり込まれた常識への問題提起。「骨花」の制作は、生と死の根幹に立ち戻り、生命に対する尊厳の念、鎮魂と再生の新しい在り様を探る行為です。徳重のフィルターを通じ写し出された「骨花」は神秘的な美しさをたたえ、生と死の意味を問いただしています。

Young Artist Japan Vol.4 にてグランプリ受賞。フジテレビ「新発見アートバラエティ『アーホ!』」に 2013 年 3 月出演。4 月 Lower Akihabara にて個展開催された初個展では大絶賛を浴びました。4 月の NY アートフェア、5 月のパリでの展覧会出品の後、各新聞、雑誌、web などでの取材が殺到。今後の活躍が楽しみな作家です。